

平成20年度

帯広市

文化賞

文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者



しょうだ きよし
莊田 喜與志

(78歳)

《受賞理由》

氏は、若くから写真の制作を続けられ、昭和28年、北海道写真協会帯広支部の創立に参加されて以来、これまでに数多くの優れた作品を発表して国内・外から高い評価を得てこられました。また、長年にわたり帯広・十勝の写真団体、愛好者の指導を行い、今日の十勝の写真文化の基盤を作り、写真の普及と発展に大きく貢献されたことにより、昭和58年に帯広市文化奨励賞を受賞されております。

近年では、企画展やコレクション展を開催するなどして、1950年代から撮り続けてきた帯広・十勝の町並みや庶民の暮らしを広く紹介するとともに、これらの作品は地域の歴史を伝える貴重な資料として大きな役割を果たしています。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

- | | |
|-------|---|
| 昭和28年 | 北海道写真協会 帯広支部創立に参加 |
| 昭和31年 | カメラ同人「帯広麓草社」会員 |
| 昭和32年 | 日本を世界に紹介するコンテスト入選 |
| 昭和35年 | 全北海道写真展 北海道知事賞受賞 |
| 昭和38年 | 帯広市民劇場運営委員会の設立メンバーとして参加（現在顧問） |
| 昭和58年 | 帯広市文化奨励賞受賞 |
| 平成17年 | 百年記念館企画展「写真が語るとかちの戦後の暮らし
～写真家 莊田 喜與志が写した昭和のとかち～」開催 |
| 平成18年 | NPO文化会議 十勝文化賞受賞 |
| 平成19年 | 莊田喜與志写真コレクション3「戦後・十勝の暮らし」開催 |
| 平成20年 | 小説「広小路人情譚」 著：鳴海 章
挿絵・写真：莊田喜與志 十勝毎日新聞社 刊 |

帯広市文化奨励賞受賞者



たいしょうみやかぐらほぞんかい 大正宮神楽保存会

昭和28年8月15日設立（55年）

《受賞理由》

昭和28年、地域の神社の例祭や奉祝行事に奉納されていた大正宮神楽を保存し、後継者を育成するため大正宮神楽保存会が設立されました。

その後、年2回欠かすことなく神楽奉納を続けられ、これまでに稚児ちごとして神楽を通して礼節や教養を習得した児童は100人以上となり、現在は稚児舞ちごまいだけでなく中学生を中心にお囃子はやしを担当する伶人れいじんの後継者育成にも力を入れています。

近年は、JICA帯広で外国人研修生を対象にロビーコンサートを行い、その様子をパネル展で市民に紹介したり、保育所や老人ホームなどで地域住民との交流も行われております。

また、全盛期に奉納された月明かりに行われる「宵宮神楽よいみやかぐら」を復活させるなど、伝統文化の継承も積極的に行われていることは高く評価されております。

このような会の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

昭和28年	大正宮神楽保存会設立
平成18年	JICA帯広でロビーコンサート開催
平成19年	ロビーコンサートパネル展開催
平成19年	ことぶき保育所にて大正宮神楽奉納
平成19年	「宵宮神楽」を復活
平成20年	特別養護老人ホーム太陽園にて大正宮神楽奉納